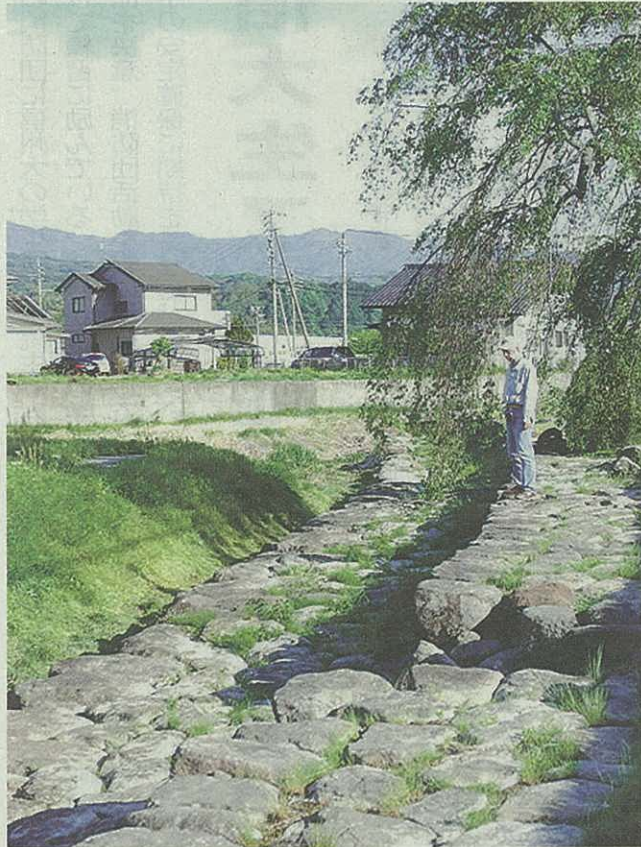


座光寺石川除 (飯田市座光寺)



存在感ある石積み整然

天竜川を挟んで対岸にある伴野堤防(豊丘村神稲)から、跳ね返ってくる川の流れに悩まされ続けた江戸時代の座光寺村。被害の大きさに耐えかねた村民が建設資金を集め、一八三二(天保二)年に「座光寺石川除」が完成した。一八三五年には約七十六段に渡って石が崩れ、現在残っているのは一八六八(明治元)年に造られたものだ。

石川除の完成以来、新田が急速に開発された。現在は市道の道端に面しており、耕地の一角で城郭の石垣のような隙間なく整然と敷き詰められている。保存状態は極めてよいといわれる。

車で現地に向かうと、どっしりとした存在感のある石積みが目の前に現れた。一つ一つの石に水害防止の願いを込め、作業に従事した当時の村民の姿に思いをはせた。



民の姿に思いをはせた。
JR飯田線元善光寺駅から一キ、徒歩十三分。松川ICから十五キ、車で三十分。
(杵木良)